

祇園祭について

平安時代、流行病とは**悪霊の祟り**とされていました。

祇園祭は無病息災など、**神に災難消滅を祈る行事**として行われています。

星野村では

長尾の天照御祖神社（あまてらすみおやじんじゃ） 7月11日

的別当の素盞鳴神社（すさのおじんじゃ） 7月14・15日 室山の事です

三坂の祇園神社（ぎおんじんじゃ） 7月14・15日

の三ヶ所で行われています。

祭礼起源は不詳で分かりませんが、三坂の獅子頭には明治4年と書かれています。

全国の神社で祭の形態はちがっています。その中で有名なのは**博多の祇園山笠**です。

星野村では神面（鬼）獅子により各家庭をまわり青竹を使って**悪霊を追い払います**。

（ただ暴れているわけではございません。）

つまり、**気持ちよく叩かれた方が縁起がよい**という事になります。

また、鬼や獅子についている御幣紙（ごへいし）を家の玄関などに

飾ると悪霊などが近づかないとされています。

（参考文献：星野村史＋自己解釈）

三坂祇園神社氏子

第一節 行事・祭礼

祇園まつり



祇園まつり

日本における祇園は貞観十八年(八七六)、時の関白藤原基経が、自邸内に牛頭天王(ゴイテンノウ)(祇園精舎の守護神)を祭り、祇園精舎の故事に習って祇園の社と称したことに始まります。現在の京

星野村では祇園まつりは、長尾の天照御祖神社・的別当の素盞鳴神社・三坂の祇園神社の三カ所で行われています。

祇園の名の由来はインドの祇園精舎で、シャカのために建てられた寺です。ここで阿弥陀経その他の経を説いたと伝えられる仏教の一大聖地です。

都八坂神社のことで、この周辺を京都祇園と称します。

往時は流行病をすなわち悪霊の祟りとして、疫神と牛頭天王が習合し、さらには牛頭天王と素盞鳴尊が習合して、旧暦六月が疫病をはじめ農作物の害虫が多く発生する時期と梅雨末期の故に、水神とも結びつき、神に災難消滅を祈る行事として、全国に広まりました。

星野村では七月十一日(長尾)、同十五日(的別当・三坂)に前に述べた三カ所で祭りが行われます。この時には子供達の胸をときめかせる「こつぱげ面」が、村内を所構わずに暴れまわります。

祭礼起源は三カ所とも不詳ですが、長尾の神面には天明六年(一七八六)、三坂の獅子頭には明治四年(一九〇九)と墨書銘があります。

獅子の掛け声は、長尾では、「祝いませよ」カパカパと三調子二回、的別当では、「祝いませよ」三調子に続き「祝うて三献」三調子。三坂では、「祝いませよ」二調子に続き「も一つせー」一回、「祝うて三献」三調子となっています。